

自動化書庫は 図書館の名脇役

国際基督教大学 黒澤 公人



ICU図書館が2000年に日本ファ
イリング製の自動化書庫1号機を導入し
て8年が経過した。当時、自動化書庫の
導入事例は、アメリカに1例知られてい
るだけであったが、最近では、日本でも、
アメリカでも数多く導入され、自動化書
庫はごく普通のシステムになった。

図書館は、大量の図書を管理するため
に大規模な書架を持たなければならない。
しかし、自動化書庫は、地下空間に大量
の図書を高密度に保管できるため、アク
セスのよい場所は利用者のために活用す
ることができる。

蔵書の半分が自動化書庫

ICU図書館の蔵書数は、現在67万冊
に達しており、年々15,000冊とい
うペースで増加している。この67万冊の
内、約半分の30万冊が自動化書庫に収納
されている。日々増加する図書を、まず
開架書架に配架し、そこから押し出され
た図書を自動化書庫に入庫している。
自動化書庫に入庫された図書は、数分
で利用可能になり、どの図書が自動化書
庫に入庫されようと特に意識する必要が
ない。学期中の一日あたりの出庫数は、
100冊から200冊になり、数分毎に
図書が出庫されている。

全面開架制度と 自動化書庫の共存

ICU図書館は全面開架制度という概
念でスタートした図書館であった。

1960年に建築され、1972年に
増築された図書館には、保存書庫という
概念はなく、すべての図書を開架書架に
一元化するルール、NDC分類で並べられ
た蔵書の増加にともなう、1980年
代半ばには、書架は満杯になり、増加す
る図書を外部倉庫会社に預けることで、
開架書架を運用した。

全面開架制度は、すべての図書を分類
という一元的なルールで配列するため、
内容が古くなっても、誰も使うことがな
いアラビア語の図書も同じ分類で並べら
れる。先生方には、同じ分類のすべての

Time	Ordered Title/Author	Call No.	Status	Note
13:36	アイビーの発展 - Aggression		OUT	
13:41	Ancient and medieval history for 200 3803AA		OUT	
13:47	図書される「戦争機軸」 - ヴァ		OUT	
13:48	図書される「日本」 - 藤本		OUT	
13:50	図書される「歴史」 - 丸山		OUT	
13:55	内閣	133.424M270	OUT	
14:00	On the way!	133.424M270	OUT	
14:04	Papers from the regional meeting 806CA1911982		OUT	
14:04	鎌倉の発展と衰退 - Eiyasu		OUT	
14:05	Handlegar in question -	134.9448288	OUT	

自動化書庫出庫指示一覧
数分毎に出庫指示がだされている。

資料を一覧することができるので好評で
もあつても、図書館利用の中心となる学
生には、古い図書や学生にとっては使え
ない図書が目につく図書館でもあり、好
評とはいえなかった。

自動化書庫のおかげで、よく使われる
図書や新しい図書を開架書庫に置くこと
ができるので、学生たちにとつても、使
い易く、図書館の書架の内容も新鮮に保
ち、よい印象を与える図書館を維持でき
るようになった。

図書館システムの発達によって、書名、
著者名、件名など様々な角度から図書を
検索できるようになり、必要な図書を探
し出すことができ、自動化書庫に入ってい
る図書も、検索画面から指示をだせば、数
分後には利用できる。書架で図書を探し回
るより簡単に内容も確認できる。自動化
書庫に入庫されている図書は、開架書架に
あつた時と同様に、利用者が必要とする図
書が必要とするだけ出庫して構わない。

自動化書庫は図書館の名脇役

開架書架は、図書館利用の中心であり、
貸出される図書のほとんどが開架書架に
ある図書である。

年間の貸出冊数約20万冊に対して、自
動化書庫の年間出庫量は2万から3万冊
であることを考えても、自動化書庫が図
書の利用の中心になることはありえない。
しかし、自動化書庫に入れられた30万冊
の図書を数分で利用できる環境を提供す
ることが、ICU図書館の全蔵書67万冊
を自由にいつでも利用できることを保証
しているのである。

今後、ICU図書館の蔵書の増加にと
もなう、自動化書庫の入庫割合は増加
していく。しかし、それは開架書架をよ
り利用しやすくすることになる。

自動化書庫は、図書館の地下に存在し、
誰の目にも触れることなく消灯された暗
闇の書庫で、図書館システムから次々と
送り出される出庫指示を処理し続けてい
る図書館の名脇役である。そして、決し
て、サービスの中心になれない存在であ
るが、大量の図書を一元管理する頼もし
いシステムである。

(ドキュメントサプライセンター)

大学の教育目的を把握し、教員と学生
の、知識、学術的関心を喚起し続ける
情報リテラシースキルを習得する手助けを
丹念に実施するというシナリオを作り上
げています。また、図書館サービスの基本
を押さえ、利用者本位に、常に新鮮な配
架を目指す手段と手法を、運営に組み込
んでいる図書館であります。

2007年発行された「図書館の再出発
〜ICU図書館の15年〜」(大学教育出版)は、
図書館員の奮闘の日々と、機械化、電子化
の波と戦いながら、教育の一翼を担うサービ
ス品質維持を、業務全般を抜本的に見直し
ながらすすめたプロジェクトXといえます。
毎朝、開館前に、今日も一日気持ちよく
学生たちがコンピュータを利用できるよう
にオスマー図書館の利用者用コンピュータ
テーブルを拭き掃除する図書館員の姿を
みることが出来ます。サービスの基本を目
のあたりにします。継続こそ力なり。協力
ありがとうございました。(編集室)